



「幸いに至る授業」

大館市教育委員会 教育長 高橋 善之

今年度も、全国各地から多くの教育関係者が視察のため大館に来訪した。その際、必ず尋ねられるのが「学力向上の秘訣」なのであるが、「授業の質を高めることが、すなわち学力の向上に直結する」とお答えしているし、まさしくそれが大館市が目指している学力向上策である。

私自身、独自の5段階授業評価基準をもっている。「スタートとゴールを明確にしたわかる授業・できる授業」がレベル3であり、最低限の合格ライン。レベル4は、「伸びやかな知性、しなやかな感性、豊かな人間性を育む授業」であり、年々、このレベルに達する授業が増えている。究極の授業（レベル5）は、宮沢賢治の授業がそうであったように、「細胞に染み入り、背骨を創り、子どもたちの人生を支える授業」である。しかし、これまで、幾多の授業を参観してきたが、そのレベルの授業は一度たりともなく、私の観念の中にだけ存在する「幻の授業」であった。

ところが、今年度、そのレベルに最も肉薄する授業を観ることができた。それが、城南小学校6年生の授業である。特筆すべきは、教師と子どもたち同士の知性と感性が共鳴し合いながら、さらに深い学びへと導かれる流れ、「一人たりとも置いていかないよ」という教師と子どもたち集団の絶対的な信頼をもって形成される人間空間である。観ていた私も含め、他県の教育長や指導主事も絶句し、心震える衝撃であった。さながらに、人類が進歩してきた過程を目の前の子どもたちの姿を通して観ているような感動であり、授業後に最上級質の「幸福感」を感じたものである。以後、私のレベル5の基準に、「人間の幸いに至る授業」を加わえたことは言うまでもない。



「スピードとリズムと情熱とアイデア」

大館市教育研究会 会長 河田 和徳

毎日の授業の成否は、①今日の課題を明確にし、②自力解決の時間を与え、③そこから学び合いに発展させ、④反応し共鳴し合いながら他の児童生徒へとつないで深め、⑤まとめをし、⑥評価問題で課題達成度を見極めているかにかかっています。時間内に終了するには、スピードとリズムが大切です。それには、タイムキーパー係りの活用がとても有効です。

例えば、自力解決の時間は7分、学び合いの時間が15分だとすると、時間をきちんと設定して計り、その時間内で活動を終わらせなければいけません。訓練でそのスピードとリズムに脳を慣れさせれば、短時間で最大の思考・表現ができるようになるものです。限られた時間で脳をフル回転させる訓練を意識して日々行えば、児童生徒の集中力はぐっと高まります。

この時、注意すべき点は、「課題解決に結びつかない発言は取り上げてつなげない」「時間になったら区切りよく終了する」ことです。タイマーの終了音がいいきっかけになります。このような授業を行うには、事前の授業構想、教材準備、発問計画、板書計画が必要です。先生方自身が授業ノートを日々つけて反省を書き込んで次回に生かしている方もいます。

第2回総合研究会では、指導案どおりにきちんとやり終える授業が見られました。やはり気持ちのいいものです。これからも、日々どう展開したら「わかる・できる・力の付く」授業ができるかを考え、スピードとリズムを大事にし、情熱とアイデアを忘れることなく頑張っていきましょう。